

EU Indicators

発表日:2020年1月31日(金)

欧州経済指標コメント:10-12月期ユーロ圏GDP

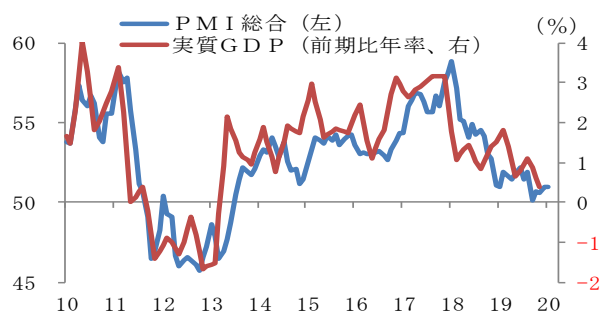
～一時的な要因も下押しか?～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

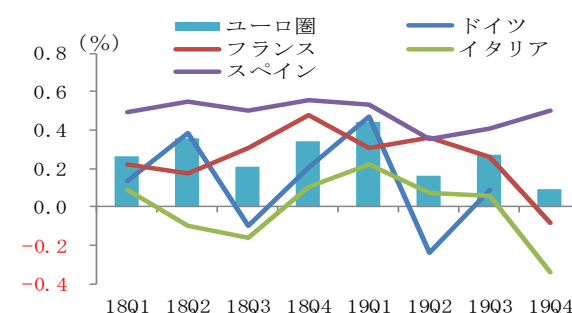
- ユーロ圏の10-12月期実質GDP成長率の一次速報値は前期比+0.1%、同年率+0.4%と、前期の同+0.3%、同年率+1.1%から減速した。公表済みの国別内訳は、フランス（前期：同+0.3%→今期：同▲0.1%）とイタリア（同+0.1%→同▲0.3%）がマイナス成長に転落、スペイン（同+0.4%→同+0.5%）とオーストリア（同+0.1%→同+0.3%）の成長ペースが加速、ベルギー（同+0.4%→同+0.4%）が前期から不変。現時点で未発表のドイツも含めた国別計数が発表される二次速報値は2月14日に発表。需要項目別の内訳は3月10日の改定値で公表される。
- 需要項目別の内訳が公表されているフランスは、個人消費（同+0.4%→同+0.2%）、非金融企業設備投資（同+1.3%→同+0.3%）、政府投資（同+1.0%→同ゼロ%）が前期から鈍化、在庫投資のマイナス寄与度（同▲0.1%ポイント→同▲0.4%ポイント）が拡大。輸出（同▲0.3%→同▲0.2%）の落ち込みが続いたものの、輸入（同+0.6%→同▲0.2%）も減少に転じたため、外需（同▲0.3%ポイント→同ゼロ%ポイント）の成長押し下げは縮小。フランスのマイナス成長転落は2016年4-6月期以来。世界景気減速の余波に加え、鉄道ストや製油所の操業停止も影響。
- 米中貿易摩擦の不安後退などで1月の製造業PMIが欧州各国で持ち直し傾向。世界的な景気底入れ期待もある一方で、ここきて新型コロナウイルスの感染拡大という新たな不安要素も浮上。

■ユーロ圏：PMI総合と実質GDP



出所：IHS Markit、Eurostat

■ユーロ圏主要国の実質GDP成長率（前期比）



出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
18/1-3月期	2.3	1.1	(1.5)	1.5	0.6	1.5	(0.3)	▲0.4	▲2.0	▲1.3
18/4-6月期	2.9	1.4	(1.6)	0.8	1.5	4.4	(▲0.0)	▲0.2	3.7	4.6
18/7-9月期	1.9	0.8	(2.2)	0.7	0.5	4.0	(1.0)	▲1.4	1.2	4.6
18/10-12月期	3.6	1.4	(1.5)	1.5	1.7	6.6	(▲1.0)	▲0.1	3.9	4.6
19/1-3月期	3.1	1.8	(0.5)	1.6	1.8	1.3	(▲1.0)	1.3	3.5	0.8
19/4-6月期	2.9	0.6	(5.2)	0.9	2.0	22.5	(0.0)	▲4.5	0.5	11.4
19/7-9月期	2.2	1.1	(▲2.5)	2.0	1.6	▲14.3	(▲0.5)	3.6	2.9	▲4.6
19/10-12月期	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

